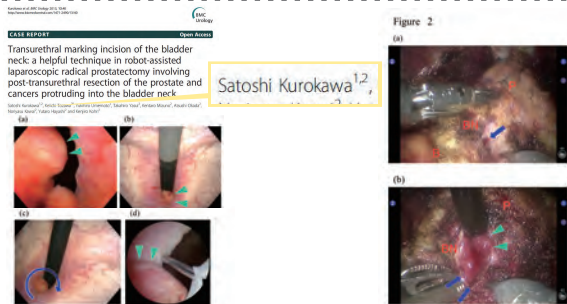


前立腺がんが早期ではなく少し進行した状態であっても手術できちんと癌を摘出する工夫

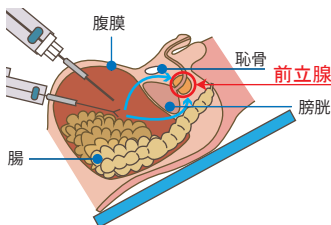
ダヴィンチ手術に加えて、従来から行っている膀胱内視鏡手術を併用することによって膀胱に進展した前立腺がんも確実に取り去る方法です。世界へ向けて発信し、2013年にイギリスの科学論文に掲載されました。



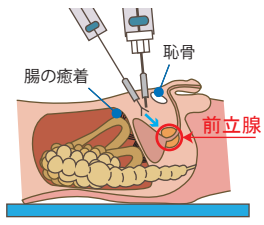
緑内障、心疾患、頭蓋内疾患、開腹手術歴など合併症があっても、最小限の負担でダヴィンチ手術を行う工夫

通常のダヴィンチ手術では、手術台を目いっぱい傾けて頭を下げて手術を行います。そのような手術体位による緑内障、心疾患頭蓋内疾患への悪影響もこれまでに報告されています。そこで、当院では手術台をあまり傾けずに患者さんへの負担を減らして手術を行っております。

通常のダヴィンチ手術



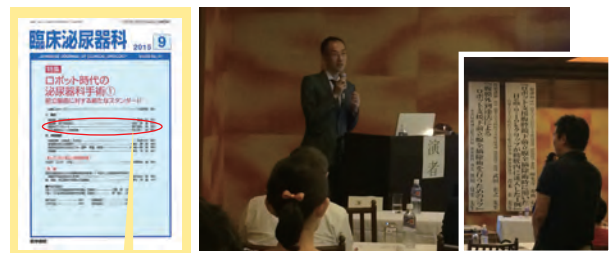
当院のダヴィンチ手術



さらに、開腹手術歴があり、他の病院では通常のダヴィンチ手術はできませんと言われた患者さんに対してもダヴィンチ手術を行うべく工夫をしております。これは腹膜外到達法(腹膜外アプローチ)という手術法であり、当院が全国で最も多くの患者さんを手がけています。

腹膜外到達法について

東海3県以外の遠方からも患者さんが腹膜外到達法のダヴィンチ手術を受けに来られています。最近では、患者さんの間でも泌尿器科医師の間でも認知度があがっています。2015年9月には、雑誌の特別企画の原稿執筆と第15回山梨手術手技研究会での特別講演を行いました。国内での認知度も上がってきたので、あとは世界へ向けて発信できればと志を抱いております。



小児泌尿器科



小児の治療に関しても、可能な限り対応しております。

Fowler-Stephens 法による精巣固定術と成績……………黒川寛史
(2015年8月号より)

最後に

泌尿器科では最先端治療も駆使しながら、それぞれの患者さんに適した本当に良い治療を追求しています。信頼できる治療をうけていただけるようこれからも務めてまいりますので、よろしくお願いいたします。